

## 通摩高校PTA広報

Yurinoki



## 百合樹

第21号

平成26年9月30日  
島根県立通摩高等学校PTA

## ユリノキ

本校が明治36年、大森に創設された際に植栽された由緒ある樹木である。創立100周年の記念樹としても採用された。



## PTA会長挨拶

石原 千郷

平素より皆様方にはPTA活動にご理解いただき又ご多忙の中、参加頂いております事感謝致して

おります。今年も、長雨と豪雨が各地にて災害をもたらし、被害にあられた方々、又ご親戚・知人をお持ちの関係者の方々に、お見舞い申し上げます。

さて、平成二十六年度のPTA会長という大役に挑戦させて頂くことになりましたが、思っていた以上に多種多様な会議・研修のうえ知らない事も多く、改めて勉強させていただいております。その中でも愕然と致しましたのは、近年の少子化の影響が日本全国で深刻な状態だと言う事は皆さんご存知だと思ひます。生徒数増加の見込みの無い学校は、再編成によって小規模化もしくは統合という現実になつていると言う事です。昔の良き時代を過ごして来た私には残酷な現実で、とても受け入れ難い事実でした。この事を明確にしたのは先般、高知県で開催されました中・四国地区高等学校PTA連合会大会高知大会での研究協議発表会(島根県・山口県・高知県の代表)の内容に盛り込まれており、この三校とも対策の為、様々な取組みをされておられます。が発表校の内容は、学校の先生方・保護者・卒業生・そして地域の支援団体協力のもと、慣れ親しんだ高校の存続の為、生徒たちも含めて色々なアイディアを持ち寄り、そして行動に移し成果を上げていると言つ事です。また、生徒たちは地域の皆様に対する御礼の為、地元の産業・観光・行事

の宣伝活動(地域町おこし宣伝活動)に協力し地元の方々と、今を生き抜こうと頑張っています。それも楽しみながら、自分たちから積極的に。私は大会会場ステージ上のパネルに映し出される子供たちの、生き生きとした姿が通摩高校の生徒たちと重なり合うように思えてなりませんでした。

幸いにも私たちの通摩高校は、五系列を有する総合学科です。今から生き抜く思素は十分あるはずです。後は生徒たちのヤル気と行動、そして保護者の後押しが結果となつて現れるでしょう。通摩高等学校の更なる発展の為、生徒たちの母校を存続させる為、私も精一杯頑張りますので、皆様方の貴重な意見を頂けます様お願い致します。

フットアートでファンキーな石原でした。

## 校長挨拶



山岡 雄一郎

平素より保護者の皆様方には本校の教育活動に対して、ご支援、協力をいただき誠にありがとうございました。

がどうぞ

夏休みは、梅雨明けとは思えないような雨続きで、台風の接近により行事を延期したり、部活動を中止にしたりする」ともありました

が、生徒諸君は、補習授業、部活動、体育祭の準備等、それぞれの活動に一生懸命取り組みました。八月三十日に実施した体育祭は、好天に恵まれ、三年生を中心に、各分団が素晴らしいまどまりを見せ、全力で競技に取り組みました。春と夏に行つた、複数の系列が協力しての学校での販売実習「通摩高フェア」、複数回のオープンスクール実施、様々な教育活動のホームページでの紹介と、新しい取り組みを進めています。

また、今年度から三年間、文部科学省の指定事業「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育事業」を受け、すべて

した。たくさんの保護者の皆様においでいただけ、温かい声援を送っていました。今年から新設したPTA・来賓種目の玉入れにもたくさんの保護者の方に参加していただきました。生徒・保護者・教職員が一体となって作り上げた体育祭でした。ありがとうございました。

の生徒に対する特別支援教育の在り方について研究を始めました。

先日報道発表があり、幸い来年度は今の定数を維持できましたが、入学生の数によっては、次年度の学級減の対象となります。「活性化プラン」を絵に描いた餅に終わらせるところなく、本校の教育活動を一つ一つ充実させるために、私たち教職員の努力はもちろんですが、保護者、地域の皆様のご協力が欠かせません。

どうか、皆様お一人おひとりの力添えをいただき、体験を通じた生き活きとした邁進高校総合学科の学びを、多くの中学生、保護者の皆さんに理解いただき、一人でも多くの入学生が迎えられることを祈っています。

### 一年生 保護者の声

PTA理事

和田 光一

娘もようやく高校生、娘達若い世代が、今よりも少し将来に希望を持ち、自分に自信を持てば、そして意思ある進路選びをできれば、日本はもっと元気になるはずです。私たちは、それに大切にしている『心の宝物』を持っていてます。でも、疊つて見えなくなってしまったり、存在すらしていないうように感じてしまったりする時があります。そんな時、再確認をする機会を与えてくれるのが先生・友人です。『心の宝物』とそのエネルギーこそが、一人一人が自分らしく輝く人生を歩むために必要なものです。昨日よりちょっとだけ前に進んでもらいたいと思う今日この頃です。

### 教職員の声

教務部長

松本 博

「お世話になつた方々や、これまで自分た

今年三月、長男が卒業し、四月には次男が入学ということでも、また二年間、邁進高校で総合学科ということもあり、今の高校生は

お世話になることになりました。

総合学科について考え、決断することが求められています。重要なことですがあまりに焦らず、色々な経験や体験をして、自分自身を磨いてもらいたいと思います。

まずは、高校生活でしか出来ないこと、部活動であつたり、ボランティア活動であつたり、もちろん勉強でも構いませんが、何かひとつでも夢中になれるものをみつけてください。その目的に向かつて「勇往邁進」してください。

頑張れ 邁進高校!! 応援しています。

PTA評議員 川上 祥晃

今年、次男が邁進高校に入学しました。

総合学科という事に最初は不安もありましたが、先生方の丁寧な指導・説明により今は安心しております。

子どもも学校生活にも慣れ、勉強・部活と両立(?)でき、充実している様です。

邁進高校には、次男の夢である保育士の勉強ができる環境があります。

### 失敗が人を育てる

進路指導部長 田中 真理子

皆さんの進路指導に関わっていると、このことを強く意識する。そして、失敗を恐れず前へ前へと進んでいく力をうらやましく思う。時には躊躇し、逃げ腰になり、諦めの表情を見せる場合もあるが、失敗を経験した人は皆昨日の自分より成長して前進していく。高校時代は失敗が許され、失敗しても、そこから

ちを支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れず自分たちの力を十分に發揮してきます。」

昔よりも「感謝」という言葉が使われる頻度はかなり高くなってきたと感じています。

心底からそう思っているのだろうか、ただうわべだけの決まり文句になってしまっているのではないか、とも感じことがあります。

人は誰か(何か)に対して本当に感謝しているとき表情は明るく輝き、緊張がほぐれ、勇気がわいてきて積極的に事に当たることがで

きるのではないかと思います。長く部活動の顧問をさせてもらつてますが、実際に「感謝」の気持ちは勝利の女神を引き寄せてくれる重要な要素であると感じています。

これはスポーツの世界だけでなく私たちの

生活全般に当てはまるのではないかでしょう。自分の身の周りを見渡してみると、感謝すべきことがどれだけたくさんあることか。

そのことに気付くだけでも普段の生活が少し楽しくなり、周囲に對して優しい気持ちで接することができて、結果として物事はうまく回るようになると思うのです。

労働の尊さを知り感謝する姿勢を持つ大人と、偏見と蔑視の見本となる大人。私はいかなる場面でも前者として、子どもたちの前に立つに足る価値観を備えているだらうかと、自らに問い合わせました。

親として教師として、私達大人は常に、言葉で行動で、子ども達に価値観を示していく

。悲惨な事件の報道を紙面で見ない日はない。今ですが、人間として成熟するために必要な根っここの価値観は、子ども達が故郷にいるこの高校三年間のうちに、私達周りにいる大人がしつかり身につけさせてやらねばならぬ。そのためにも自分がしつかり成長せねばならないと、改めて考えさせられた時間でした。

### 自分に問う

一年学年主任

松田 直子

渡辺和子著「置かれた場所で咲きなさい」を読み、襟を正す時間を待ちました。

母親が、幼い子を連れて水道工事現場を通つて語ります。「こうして働いてくださる人のお蔭でおいしいお水が飲めるの。」別の母親は語ります。「勉強しないと辛い仕事をしないといけなくなるの。」

労働の尊さを知り感謝する姿勢を持つ大人と、偏見と蔑視の見本となる大人。私はいかなる場面でも前者として、子どもたちの前に立つに足る価値観を備えているだらうかと、

多くを学べる貴重な期間である。大切なのは失敗に気づくこと、そのあとどうするかを考えること、そして行動することだ。自分自身が動かなければ周囲はサポートもできない。そして忘れてはならないのは、失敗だと気づかなければ成長のチャンスも訪れないということだ。さて、今年も多くの成長を見届けられると期待して、サポートしていくたいと思う。

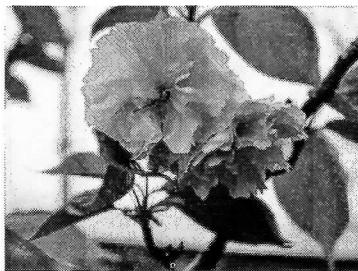


## ◆写真でつづる前期の出来事

◆四月



○入学式  
総合学科二十期  
入学生となる九  
十一名の新入生  
が邇摩高校の門  
をくぐりました。  
新入生たちは元  
気よく入学しま  
した。

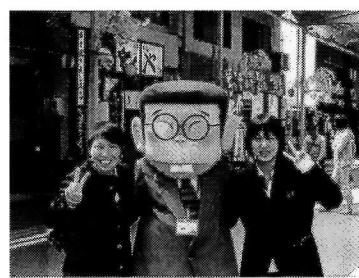


○記念樹の桜  
昨年度に植えら  
れた桜が早速花  
をつけました。ま  
だまだ小さな木  
ですが、いつかは  
立派な桜の大木  
になるでしょう。

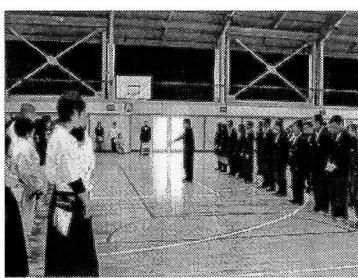


○宿泊研修  
今年度から一年  
生は三瓶に、宿泊  
研修を行うこと  
になりました。ま  
だ名前も覚えて  
いないけど、何と  
か協力してカレ  
ーを作りました。

◆五月



○遠足  
二年生は広島の  
安佐動物園、三年  
生は鳥取の水木  
しげるロードへ  
出かけました。天  
候にも恵まれ、絶  
好の遠足日和と  
なりました。



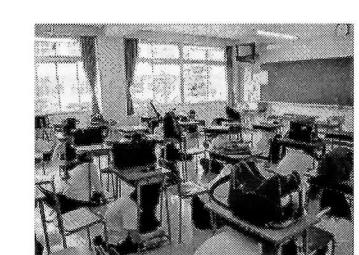
○高校総体  
五月二十九日か  
ら高校総体が開  
催され、邇摩高  
校からも、柔道、  
卓球、ソフトテ  
ニス、バド、バ  
スケット、バレーボ  
ールがそれぞれ  
参加しました。

◆六月

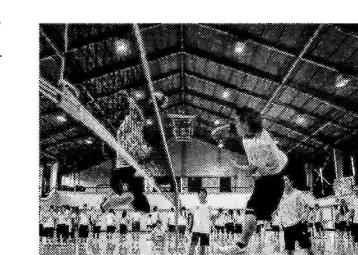


○交通安全・防犯  
講話  
大田の警察署より  
お越しいただき、  
交通安全と防犯  
についてお話を  
していただきました。

◆七月



○防災避難訓練  
地震及びそれに  
伴う津波を想定  
して行いました。  
五分以内を目標  
に、静かに速やか  
に避難を終える  
ことが出来まし  
た。今後も継続し  
て訓練を行って  
いきます。



○校内球技大会  
クラス毎にバレ  
ーボール・ソフトボ  
ールで行う予定で  
したが、雨天の為  
バレーボールのみ  
となりました。学  
年を超えて白熱し  
た試合が展開され  
ました。

◆八月



○百十一周年  
体育祭  
「仁万田台に  
巻き起こる風  
となれ、勝利



○オープン  
キャンパス  
市内外の中学校  
から約百二十名  
の生徒が来校さ  
れました。本校生  
の指導の下、模擬  
授業・実習・部活  
動見学などを体  
験されました。

◆九月



○百十一周年  
体育祭  
「仁万田台に  
巻き起こる風  
となれ、勝利  
という名の喜  
びを仲間とど  
もに」をスロ  
ーガンに、体育  
祭が行われま  
した。今年は天  
候にも恵まれ、  
良い体育祭日  
和となりまし  
た。全校生徒参  
加の長縄跳び、  
応援にも熱が  
入る分団別リ  
レー、PTA・  
来賓参加種目  
の玉入れ、各分  
団趣向を凝ら  
した応援合戦  
等、大変に盛り  
上がりました。  
猛暑の中夏休  
み中から準備  
に取り組んだ  
生徒会、三年生  
の皆さん、お疲  
れ様でした。